

京都府立医科大学附属病院で脂肪肝の診断を受けられた患者様・ご家族の皆様へ

非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の成因に關与する液性因子およびバイオマーカーの同定
に關する調査へのご協力のお願ひ

今回、京都府立医科大学では、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の病態解明に關する研究を実施いたします。そのため、過去に京都府立医科大学附属病院でNAFLDの診断を受けられた患者さんのうち、将来の医学研究に血液および組織を利用することに同意いただいた方のサンプルを使って検討させていただきたいと考えています。

研究の目的

現在、食生活の欧米化により肥満人口が増加してきており、肥満患者さんでは高率に脂肪肝（非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD））を合併しています。NAFLDのなかでも肝炎を伴う、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）は肝硬変、肝癌に進展することが報告されています。NASHの診断には肝臓の組織検査（肝生検）が原則ですが、入院が必要で、合併症を伴う可能性があり、またNAFLD患者さん全員に肝生検を行うことは不可能であるため、肝生検に代わりうるスクリーニング検査の確立が望まれています。そこで本研究ではNASHとそうでない患者さんにおける血液中の炎症制御性脂質メディエーター濃度の違いを検討します。この研究によりNAFLDの病態を解明できた場合、NAFLD患者さんにおける診断や治療などに用いることができる有効な検査方法が確立できることが期待できます。

研究の方法

・対象となる患者様について

平成27年7月1日から平成29年7月31日までの間に、京都府立医科大学消化器内科でNAFLDの診断をされました患者様が対象となります。

・方法について

血液サンプルを用いて、血液中の炎症制御性脂質メディエーターの濃度を測定します。測定した成分に關して、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）と診断された患者さんとNASHではないと診断された患者さんの間で、これらの成分の量を比較検討します。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

本研究の研究計画書および研究の方法に関する資料は入手、または閲覧可能です。ご希望がある場合は下記までご連絡ください。ご自分、あるいはご家族の情報を本研究に登録したくない場合は、平成29年10月30日までに下記連絡先までご連絡ください。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

本研究は、京都府立医科大学医学倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先

京都府立医科大学 消化器内科学

職・氏名 講師・山口寛二 電話：075-251-5519（消化器内科 医局）